

子どもの声を聴き、権利を守るために

居場所の重要性と支援の連携

セーブ・ザ・チルドレン

内容

1. はじめに（団体紹介）
2. 能登半島地震における緊急支援活動の概要
3. こどもひろば（Child Friendly Spaces: CFS）
4. 支援者に必要なトレーニング
5. 他団体との調整・連携の重要性
6. 課題と期待



2018年西日本豪雨支援で、岡山県とセーブ・ザ・チルドレンが開設・被災した子どもたちのために開設・運営した子どもの居場所

子ども支援専門の国際N G O セーブ・ザ・チルドレン

子どもの権利のパイオニアとして、約100年の歴史を持つ子ども支援専門の国際NGOです。

1919年にイギリス人女性エグランタイン・ジェブによって設立。

日本を含む29ヶ国の独立したメンバーが連携し、**約120ヶ国**で子ども支援活動を展開しています。

日本では、1986年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設立され、国内外で、行政や地域社会と連携し、子どもたちとともに活動を行っています。

能登半島地震における 緊急支援活動の概要



- 1月3日、石川県に緊急支援チームを派遣
- 避難所などで衛生用品や文具などが入った「緊急子ども用キット」や衣類などを提供
- 避難所で「こどもひろば」を開設・運営
- 放課後児童クラブ支援員などを対象に「子どものための心理的応急処置」講座を実施
- 保育園や学校、放課後児童クラブへ給食補食や備品支援
- 放課後子ども教室などへ子ども支援の専門職派遣サポート
- 被災した子どもたちの思いや意見を聞くためにアンケート調査を実施



詳しくはこちらから↑

活動事例の紹介：こどもひろば (Child Friendly Spaces: CFS)



能登半島地震緊急支援で実施したこどもひろば（2024年1月）

こどもひろば (Child Friendly Spaces: CFSs)

「こどもひろば」は、避難した先で子どもたちが遊びや学びを通して、落ち着きを取り戻し、回復力を養い、心身の発達を支えるための空間です。

世界の人道支援現場で、多くの子ども支援団体がこどもひろばを実施しています。



能登半島地震緊急支援で「こどもひろば」の実施（2024年1月）

遊びとつながりによる癒し

遊びや活動を通して、子どもたちのこころが落ち着き、安心感を取り戻しやすくなります。子どもたちが自分の気持ちや感情を自然に表現ができ、お互いに支え合える大切な場所です。

日課やルーティンの回復

こどもひろばでは、決まった時間に活動が行われるなど、規則的なルーティンを作り出します。これによって、避難所でも生活リズムを維持することにつながり、子どもたちに安定感と安心感を提供し、日々の過ごし方が予測可能なものになります。

安全で支援的な環境

「こどもひろば」は、保健医療や生活支援などの幅広い支援につなげられることができる重要な場です。

「こどもひろば」の組織間共通の6つの原則

- 子どもにとって安心・安全な環境であること
- 子どもを受け入れ、支える環境にあること
- 地域の特性や文化、体制や対応力に基づいていること
- みんなが参加し、ともに作りあげていくこと
- さまざまな領域の活動や支援を提供すること
- 誰にでも開かれていること

自治体との連携事例：岡山県（2018年西日本豪雨）

- 事業名：「被災した子どもの安全・安心な居場所」
- 期間：2018年7月18日～8月31日
- 主催：岡山県保健福祉部子ども未来課
- 運営：NPO法人きよね夢てらす
- 協力：総社市、岡山県立大学、おかやま在宅保健師等の会、セーブ・ザ・チルドレンなど



海外の事例：トルコ家族・社会サービス省との連携事例（2023年大地震）



2023年2月に発生した大地震後、セーブ・ザ・チルドレンは、家族・社会サービス省が被災地に派遣したソーシャルワーカーや心理士、看護師などから構成される「心理社会的支援チーム」と連携し、避難所（コンテナ村）に「こどもひろば」を設置・運営しました。

支援者に必要なトレーニング

人道支援の国際ガイドラインに基づいたトレーニング

「こどもひろば」の運営に携わるボランティアを含むスタッフを対象に実施している研修例：

- 子どものセーフガーディング
- こどもひろば（Child Friendly Spaces: CFS）
- 子どものための心理的応急処置（Psychological First Aid: PFA）

* 最後のページに参考資料を掲載しています。

多職種・他団体との連携と調整の重要性

能登半島地震の支援において、パートナー団体と連携して実施した支援の例

活動	連携団体
衛生用品や文具などが入った「緊急子ども用キット」支援	DMAT（災害派遣医療チーム）、日本赤十字救護班、NGOピース・ウィンズ・ジャパン
こどもひろば、屋外遊び場の開設・運営	NPOプレーワーカーズ、避難所運営者など
「子どものための心理的応急処置」講座の実施	DPAT（災害派遣精神医療チーム）、日本赤十字社
放課後子ども教室などへの子ども支援の専門職派遣サポート	児童健全育成推進財団、NPO倉敷放課後児童クラブ支援センター
そのほか：支援団体調整会議や情報共有	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)、ジャパン・プラットフォーム国内災害ワーキンググループなど

緊急支援においては、多職種・他団体の連携・調整が不可欠であり、それが子どもたちへの支援の質を高め、迅速な対応を可能にします。

課題と期待

避難所での子どもの居場所設置・運営

- 災害が起きてからではなく、備えの段階から、避難所の子どもの居場所（キッズスペース）設置に向けた取り組みの強化
- 地域でキッズスペースを開設・運営できる子ども・子育て支援者などの特定と、能力強化研修の実施



熊本地震緊急支援で実施したこどもひろば（2016年4月）

子どもの視点に立った連携と調整（支援のコーディネーション）

災害時、子どもの特有のニーズに対応するためには、子どもの視点に立った支援のコーディネーションが不可欠



能登半島地震緊急支援 石川県庁に設置された
保健医療調整本部（2024年1月）



1.5次避難所で子どもの居場所を準備するようす
（2024年1月）

參考資料

こどもひろば（Child Friendly Spaces: CFS）



「子どもにやさしい空間ガイドブック(第三版)」(日本ユニセフ協会／災害時
こころの情報支援センター発行)

<https://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/pdf/cfs.pdf>

災害時子どもの居場所支援事業運営チェックリスト（事務局）				
項目	内容	完了	備考	備考
① 準備	事業計画、地域連携計画、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
② 実施	避難所運営計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
③ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
④ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑤ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑥ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑦ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑧ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑨ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑩ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑪ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑫ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑬ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑭ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑮ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑯ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑰ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑱ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑲ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
⑳ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉑ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉒ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉓ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉔ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉕ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉖ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉗ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉘ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉙ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉚ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉛ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉜ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉝ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉞ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㉟ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊱ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊲ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊳ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊴ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊵ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊶ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊷ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊸ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊹ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊺ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊻ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊼ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊽ 評価	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊾ 報告	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△
㊿ 改善	事業計画の作成・確認、避難所運営計画の作成・確認	○	△	△

- 災害時の子どもの居場所支援事業運営チェックリスト（CFS協議会）

<https://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/3588/162250880349.pdf>

- 設置・運営のためのオンライン研修（CFS協議会）

準備：https://youtu.be/wx_L1aaCZHw?si=aLXxYf7VI4BSYrRJ

実施：<https://youtu.be/Qj1x9M0YcYw?si=5uF5XWJ9IIOsuwt0>

- [実践に基づくCFSの学び集](#)（CFS協議会）

子どものための心理的応急処置 (Psychological First Aid for Children)

子どものためのPFAとは、特別な心理的知識がなくても、災害などの危機的状況で子どものところに配慮した支援ができるよう、支援者が取るべき行動や支援の姿勢を示したものです。研修では、子どもが示す一般的なストレス反応について学び、支援者が子どもに合ったコミュニケーションを取りながら、必要なサポートを適切に提供することを学びます。



- 2011年：WHOなどが「心理的応急処置（Psychological First Aid: PFA）」研修マニュアルを発行
- 2013年：WHO版PFA研修マニュアルを基に、セーブ・ザ・チルドレンが子どもに特化した「子どものための心理的応急処置」研修マニュアルを発行
- 2014年：日本での研修普及を開始（協力組織：国立精神・神経医療研究センター、みやぎ心のケアセンター、災害派遣精神医療チーム（DPAT）など）
- 2024年までに、16,000人以上が研修を受講

<https://www.savechildren.or.jp/lp/pfa>

人道支援の国際ガイドライン

子どもの命、安全、権利、尊厳をまもるために支援団体が最低限行うべき活動や、これらの活動を行うための準備方法に関する情報も含まれています。



スフィアハンドブック

<https://www.nagoya2.jrc.or.jp/content/uploads/2021/08/Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf>



人道行動における子どもの保護の最低基準（第2版）

<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/cpms2.pdf>